

国際政治経済学研究科

学生数の確保 (人)	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
1年次	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ (—)	—	※ (3)	※ (2)	※ (3)	※ (2)	※ (2)	※ (2)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	10 (10)		2 (3)		— (—)		— (—)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	3 (15)			2 (3)			2 (4)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	— (1)	— (—)	— (—)	— (—)	2 (2)			
	退学者	1 (—)	— (1)	1 (—)	— (—)	— (1)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・() は前年度の数値を、※は外国人留学生を内数で示す。

1 国際政治経済学研究科の活動

- (1) 博士論文指導体制の充実に力を注ぎ、前年度に引き続き学位授与数（課程修了者）の増加に努めた。
- (2) 新研究科の設置と平行して、博士論文の指導体制について見直しを行い、主指導教官による指導責任の強化（予備審査までは副指導を2名とする）を実施した。また、国際政治経済学ワークショップ(I)を研究科の教員が毎年ローテーションで担当することにした。
- (3) 本研究科の特色の一つである発展途上国のヤング・リーダー育成のための世界銀行等との提携による大学院奨学金プログラム（The Joint Japan/World Bank Graduate Scholarship Program）は、5回期生を12名受け入れた。このプログラムは、平成13年度（第4回期生）より国際政治経済学専攻と新契約（3回期6年間）に基づいて実施されている。
- (4) 世銀プログラム主催で国内外からの講師を招いて、特別セミナーを13回開催した。

2 教員の教育業績評価の状況

- (1) 平成15年度の博士学位の授与実績は課程修了者2名（論文博士0）であった。別に2名について予備審査を実施した。
- (2) 平成14年度から世界銀行プログラムのドナーとして、アフリカ開発銀行とアジア開発銀行を新たに確保しており、その結果、本研究科の世界銀行プログラムの留学生として、アフリカ開発銀行、アジア開発銀行の資金により、それぞれ1名を新たに受入れることになった。

3 自己評価と課題

- (1) 本研究科は、博士論文指導体制の充実・整備に力を注ぎ、その効果が現れてきているが、課題も多い。とくに、本研究科は国際政治経済学という新しい学問体系の開拓をめざしているが、現実の論文作成においては、既成学問の要求水準を満たすことが求められ、学生には負担となっている。
- (2) 平成9年度より刊行しているレフェリー制雑誌『国際政治経済学研究』（年2回刊行）に掲載された本研究科学生の論文は平成15年度は6本のほり、本雑誌への寄稿は博士論文作成のための一つのステップとして定着しつつあり、さらに審査体制の充実を期したい。